地域と学校がパートナーとなって子供の成長を支える

コミュニティ・スクール通信

岩手県教育委員会事務局
生涯学習文化財課　地域学校連携担当
〒020-0034　岩手県盛岡市内丸 10-1
ＴＥＬ　019-629-6173
ＦＡＸ　019-629-6179
E-mail　DB0005@pref.iwate.jp

令和２年 12 月７日発行　第８号

令和元年度県教育研究発表会　コミュニティ・スクール分科会　助言者
文部科学省ＣＳマイスター
国立大学法人宮城教育大学学長特別補佐（特任教授）野澤　令照　氏　より

１　当日の発表について

（１）八幡平市教育委員会の発表について　※参照：「コミュニティ・スクール通信」第４号

・コミュニティ・スクール導入に向けて取り組む中で**見えてきた課題を１つ１つ解決**してきている。県内にこのような先行事例があることは、今後導入を進める市町村にとって大変参考となる。
・コミュニティ・スクールの取組を**いかに保護者や地域に理解してもらうかが大事**。リーフレットや市の広報を利用した周知は大変効果的。

（２）陸前高田市教育委員会の発表について　※参照：「コミュニティ・スクール通信」第５号

・**今ある組織の確認から**始めたことが重要なポイント。現状分析から始めたのがよい。
・**コミュニティ・スクールの導入を利用して、地域の課題に迫る**考え方がよい。やらされ感では何もうまれない。陸前高田市の取組は、防災・復興の観点から、全国にとって貴重な取組となるだろう。

（３）西和賀高校の発表について　※参照：「コミュニティ・スクール通信」第６号

・「いのち輝く百年創造塾」の取組を通して、**まちを支える人材育成**に取り組んでいるのが素晴らしい。生徒は幸せな経験をしている。次への意欲につながっている。
・**町の若手職員とのつながり**をしかけたのが面白い。高校の存在感を町に示せている。魅力ある学校だからこそ進学希望生徒が増加している。

（４）高田高校の発表について　※参照：「コミュニティ・スクール通信」第７号

・キャリア教育の取組にうまくコミュニティ・スクールの仕組みを取り入れている。**高校の魅力づくりのしかけ**となっている。
・研究指定を引き受けるうえで、担当者は質の高い研修に参加して臨んでいた。校内の先生方の理解を深めるのは難しいことではあるが、今後も**先生方を巻き込みながら**取組を進めてもらいたい。

２　全体を通じて

①【コミュニティ・スクールはまさに学校マネジメント】
・学校、職員、子供、保護者、地域、それぞれの**強みを考える**ことから始めてもらいたい。

②【保護者・地域の方に理解してもらう工夫を】
・コミュニティ・スクールの**効果やよさを学校として考えて示す**必要がある。時には行政の力も借りて、粘り強く、辛抱強く取り組む必要がある。

③【熟議を大事に】
・熟議は何度もやってみるといい。まずは先生同士で。その後、保護者を入れ、地域の方を入れ、さらには生徒を入れていくとよい。**参画意識が高まる**。

④【委員の人選が大事】
・充て職よりも、**学校に対して好意的な方**に入ってもらうとよい。これからの時代、経済界の方にも入ってもらうのもよい。特に高校は重要。

⑤【決してあせらないこと】
・**成果を求めすぎない**。時間がかかるもの。**楽しい**という思いを大事にして。

※令和２年度県教育研究発表会では、１日目午後に特設分科会「コミュニティ・スクール」を開催！
参加可能人数は 82 名です。人数に達した時点で申込締切となります。お早めにお申し込みを。

本通信は下記ホームページに掲載しています。（※ダウンロード可能）
岩手県生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」
http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/

「まなびネットいわて」には、文部科学省が作成したパンフレットや全国の事例紹介があります。また、岩手県が作成した資料や県内の事例等の紹介もあります。ぜひ、ご覧ください。